愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	保育実習IB		
担当者(Instructors)	伊藤 龍仁	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

実務家教員科目(Pro teacher course)

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、総合的に実践する応用力を養うために保育所以外の児童福祉施設等において概ね10日間(60時間以上90時間未満)の実習を行い、施設の役割や機能、子ども又は施設利用者、保育士の職務内容や職業倫理等を具体的に理解する。なお、本科目の履修は「保育原理」「保育内容総論」「社会的養護」並びに「保育実習事前指導 IB」の単位をすべて修得済みであることが必須の条件である。

■授業形態・授業の方法(Class form)			
授業形態(Class form)	実験・実習		
授業の方法(Class method)	居住型児童福祉施設等の生活・支援に参加し、子ども(利用者)への理解を深めさせるとともに、施設等の役割・機能とそこでの保育士の職務と役割について学ばせる。以上の内容を宿泊又は通いの実習形式で行う。		
当該科目と実務との関 係(Relationship between cource and practice)	児童福祉施設の職員(実習指導担当)としての実務経験(19年)に基づき、社会的養護施設等で使用する実際の 資料を使用し、具体的実習場面を想定するロールプレイなど実践的な事前・事後指導を実施している。		

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第2回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第3回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第4回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第5回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第6回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第7回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第8回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第9回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第10回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第11回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第12回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第13回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	

第14回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	
第15回	10日間(宿泊又は通い・80時間程度) 実習の実施	居住型児童福祉施設等において規定時間の実習に取り組む。	

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

①保育実習 | Bにおける事前・事後指導の授業を履修して課題に取り組む。②「実習生個人票」「評価票」「出勤簿」「誓約書」「実習計画書 (課題と抱負)」を作成する。 ③計画書を作成してサービスラーニングに取り組み、実施後に記録を作成する。 ④保育実習 | B終了後に実 習を振り返り「自己評価票」「実習報告書」を作成する。 いずれも1日あたり30分程度の事前事後学習を行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

①提出書類については添削して評価を行い、授業内で返却して解説し、改善を図らせる。 ②作成した「実習記録」を配属施設の担当職員が添削してコメントを記入して学生にフィードバックを図る。 ③配属施設の評価を学生に開示してフィードバックを図る。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)			
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)	
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	保育士になるための資格に必須の知識と基礎的・実践的な技能を身につけることが できる。	
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の保育・福祉の現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うための視 座と思考力、的確な判断力と豊かな表現力を習得できる。	
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	児童福祉施設の養護と保育に主体的協働的に携わるために求められる人間力を体得 できる。	

■成績評価(Evaluation method) 筆記試験(Written exam) 実技試験(Practical exam) とポート試験(Report class exam) その他(Other)

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

配属施設における評価を元に施設実習全体の基準を平準化して総合的に評価する

■テキスト	■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)	
1	保育士をめざす人の福祉施設実習〔第2版〕愛知県保育実習連絡協議会・「福祉施設 実習」編集委員会 編 編集代表:伊藤貴啓・小川英彦	9784860153083	
2			
3			
4			
5			

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		